

平成23年度 ECOシーズ発表会のご案内

主催：栃木県 共催：とちぎ環境産業振興協議会

開催趣旨

県では、県内の環境産業関連企業とのマッチングを図ることにより、エコ技術の開発と事業化を促進するため、県内大学等のもとより、県外大学や産総研が保有する環境関連技術シーズが一堂に会する「ECOシーズ発表会」を開催いたします。

発表終了後は、発表者との個別相談も実施しますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

日時

平成23年11月22日(火) 13:00~17:00

場所

栃木県研修館 講堂

お申込み方法

別添参加申込書にご記入の上、11月15日(火)までにFAXまたはE-mailでお申込みください。

定員

100名程度

参加費

無料

会場案内



研修館へは、
本館2階から連絡通路をご利用ください。

- ※ お車でのご来場の方は、県庁地下駐車場に駐車してください。(駐車券を会場までお持ちください。)
- ※ 研修館へは、本館2階北口から連絡通路をご利用ください。



栃木県庁

所在地：320-8501 宇都宮市塙田1-1-20
＜県庁舎へのアクセス＞

- JR宇都宮駅西口バスターミナル
 - ・1番、2番のりば発(市役所循環系統を除く)「県庁前」下車(徒歩3分)
 - ・6番、7番のりば発(すべて)「県庁前」下車(徒歩3分)
 - ・38番のりば(きぶな号)「栃木県庁舎前」下車
- JR宇都宮駅より徒歩25分
- 東武宇都宮駅より徒歩12分

お申込み・お問合せ先

栃木県産業労働観光部 工業振興課 技術振興担当 担当：富士山、清水

TEL/FAX: 028-623-3249/3945 E-mail: eco-pro@pref.tochigi.lg.jp

No. 1	高濃度有機性廃水の効率的省・創エネルギー型排水処理プロセス	(13:05～)
	【発表者】 群馬大学 大学院工学研究科 渡邊 智秀 教授	
	【概要】 食品関連の産業廃水や畜産廃水などのような各種高濃度で窒素成分を含有する有機性廃水では有機成分のみならず窒素の除去が要請されています。このような性状の廃水に対して効率的で省・創エネルギー型の処理技術として、複機能グラニューールを利用した方法などの新しい処理プロセスのいくつかを紹介する。	
No. 2	グリーンテクノロジーの実現へ向けた大型風車の環境影響評価と感性工学評価について	(13:30～)
	【発表者】 茨城大学 工学部機械工学科 稲垣 照美 教授	
	【概要】 茨城大学の環境熱流体エネルギー工学研究グループでは、緊急時の局所情報通信・エネルギーステーション構想の実現に向けて、自然流体エネルギーによる地産地消と小型分散熱源化に向けた人に優しい風水力発電システムを研究している。ここでは、その一環としての環境影響評価法について解説する。	
No. 3	静電塗布法を利用した有機薄膜太陽電池	(13:55～)
	【発表者】 埼玉大学 大学院 理工学研究科 物質科学部門 福田 武司 助教	
	【概要】 静電塗布法はナノ構造の有機薄膜を直接形成できる成膜技術であり、低コストかつ高効率な有機薄膜太陽電池を作製できる可能性を秘めている。本講演では我々が試作を進めている静電塗布装置及びそれを利用した有機薄膜の作製技術や有機薄膜太陽電池を紹介する。	
No. 4	ほう素吸着剤の開発	(14:20～)
	【発表者】 産業技術総合研究所 環境化学技術研究部門 科学システムグループ 川合 章子 主任研究員	
	【概要】 我が国のほう素排出基準値は10mg/Lであるが、中小企業においては遵守するのが厳しいため、高性能の新規吸着剤が求められている。当研究室で開発中の吸着剤について、合成方法と吸着性能について紹介する。	
No. 5	ディーゼルエンジンの燃料多様性に関する研究	(14:45～)
	【発表者】 帝京大学 理工学部 森 一俊 教授	
	【概要】 将来の低炭素化社会実現の一助として、内燃機関の貢献が必要であり、バイオも含む多様な燃料を用いた燃焼研究がとても重要である。そこで、帝京大学所有の実機ディーゼルエンジンを用いたバイオディーゼルエンジンを用いたバイオディーゼル燃料の燃焼や排出ガス試験を行い、将来の内燃機関の燃料探索に貢献したい。	
No. 6	光プラズマを用いた光触媒酸化チタン皮膜形成プロセス	(15:25～)
	【発表者】 足利工業大学 総合研究センター 野田 佳雅 助手	
	【概要】 熱プラズマを用いた光触媒酸化チタン皮膜形成プロセスであり、開放大気下で容易に高温場が形成できることから、溶接や溶射などの熱源として古くから実用化されている。 本発表では、当研究グループが開発した熱プラズマ利用光触媒酸化チタン皮膜形成プロセス及び当該プロセスにより形成した皮膜の光触媒特性について紹介する。	
No. 7	太陽光発電システムと系統連系技術について	(15:50～)
	【発表者】 小山工業高等専門学校 電気情報工学科 甲斐 隆章 教授	
	【概要】 太陽光発電の原理、太陽光発電システムの概要について述べ、また低圧連系・高圧連系における系統連系技術要件の概要について説明する。さらに、太陽光発電システムの大量連系における技術課題について紹介する。	
No. 8	バクテリアの化学物質認識能力とその応用の可能性について	(16:15～)
	【発表者】 宇都宮大学 大学院 工学研究科 荷方 稔之 助教	
	【概要】 運動性を持つ細菌は、外界の様々な化学物質の濃度勾配を感知し、その物質に集積したり逃げたりすることで行動的な応答を示す性質（走化性）を持っている。 この応答は迅速かつ高感度といったセンサーとしての特徴を有している。我々はこの性質を細菌の物質認識能力として捉え、細菌そのものを動的バイオセンサーとして応用することで新規物質検出システムや効率的なバイオレメディエーション（微生物などを用いて有害物質で汚染された自然環境を、有害物質を含まない元の状態に戻す処理のこと）の開発を目指している。	
No. 9	スギ樹皮を原料とするバイオエタノール製造に関する研究	(16:40～)
	【発表者】 産業技術センター 食品技術部 佐々木 隆浩 技師	
	【概要】 スギ樹皮を原料とし、アルカリ蒸解・酵素糖化・酵母発酵を通して最も効率的にバイオエタノールを生産する手法について検討を行った結果を紹介する。	